

平成 29 年度 各種調査結果等を活用した学力保障の取組事例

事務所名	県南教育事務所	学校名	奥州市立水沢南小学校	TEL	0197-24-2470
------	---------	-----	------------	-----	--------------

「チーム南小」で行う組織的な学力保障の取組

【今年度の目標】

- 「H29 全国学力・学習状況調査」の算数において正答率が全国平均を上回るようにする。
(対全国比 105 以上)
- 「H29 岩手県学習定着度状況調査」の算数において正答率が県平均を上回るようにする。
(対県比 105 以上)
- 「H28 全国学力・学習状況調査」「H28 岩手県学習定着度状況調査」で落ち込みが見られた「数
学的な考え方」の観点の問題の正答率が、昨年度を上回るようにする。
- 「H29 全国学力・学習状況調査」「H29 岩手県学習定着度状況調査」の算数において、質問紙
調査「授業の内容がよく分かる・分かる」の割合 90%を目指す。

【組織的な学力保障の取組を図る上で工夫した点】

- 「チーム南小」の組織を生かした CAPD の推進
- 学力向上を視点とした授業改善の取組
- 学力向上につながる教師の授業力向上の取組
- 日常における学力向上の取組

【具体的な取組】

1 「チーム南小」の組織を生かした CAPD の推進
 本校では、C (評価) A (改善) P (計画) D (実施) サイクルに基づいた目標達成型の学校経営を目指しており、全ての教育活動で「チーム南小」の組織を生かした協力体制のもと、学年経営を重視した学校運営を行っている。
 学力保障の取組も、下記の体制で年間を通して行っている。 【資料 1】

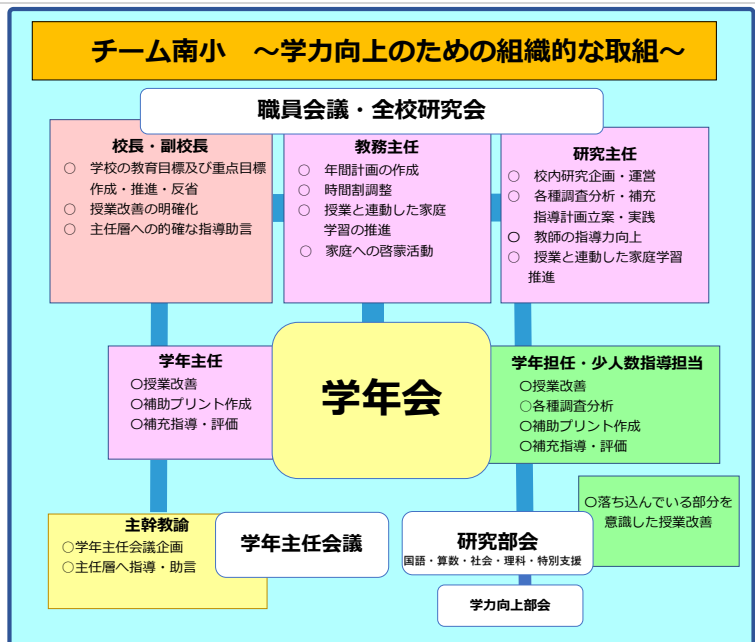
(1) 「チーム南小」の組織

ア 学年会 (毎週月曜日)

本校学校運営の要である。
 教科進度や学力向上の取組・学校行事の取組、気になる児童について等を学年主任が提案し、担任と少人数指導担当とともに、十分に時間をかけて話し合いを行う。
 また、職員室では毎日のように学年の枠を超えて「学力向上の取組や生徒指導等」の情報交換を絶やさず行っている。学校全体で「炉辺談話」「率先垂範」を大切にしている。

- 【学年会での検討内容】**

 - 気になる児童の共通理解
 - 学年行事のねらい・計画・確認
 - 教科進度・教材研究
 - 学力向上の取組
 - その他



イ 学年主任会議 (随時)

主幹教諭が招集。学力向上の取組の進捗状況の確認や意思統一を行う。

ウ 職員会議・全校研究会


各種調査の分析結果を共通理解し、授業改善や補充指導の構想をもち、協議・検討する。

エ 研究部会・学力向上部会

国語・算数・社会・理科・特別支援の5つの教科部会、少人数指導を行う学力向上部会を組織している。同一学年で研究部会の枠を超え、事前研究会に協力し合い、研究提案に臨んでいる。また、各調査分析・補充プリント作成・授業改善の具体的な提案・実施・評価を行っている。

(2) 各種調査の分析から見えた課題とH29の学力向上の取組

年度初めの校内研究会で、昨年度の各種調査の結果と落ち込んでいる部分について確認した。また、全職員でH29全国学力・学習状況調査の問題を解き、本校の学力課題の共通理解を図り、具体的にどのような学力向上の取組を行うのか、協議した。【資料2】

	学年	各種調査による学力課題	学校課題	H29の取組																																							
				教務	研究	学年																																					
H28全国学力・学習状況調査	6	H28 全国学力調査 正答率(%) <table border="1"> <tr><td></td><td>本校</td><td>岩手県</td><td>全国</td></tr> <tr><td>算数A</td><td>86.1</td><td>77.9</td><td>77.6</td></tr> <tr><td>算数B</td><td>54.7</td><td>47.0</td><td>47.2</td></tr> </table> <p>○どちらも全国比を上回ったが、ABの正答率に大きな開きがあった。問題文から解答に必要な情報と不必要な情報の弁別、適切な文字数で抜き出す、問題文自体を的確にとらえられることが全職員から課題として出された。 ○問題文の構成なども含め、今求められている学力について共通理解を図ることができた。</p>		本校	岩手県	全国	算数A	86.1	77.9	77.6	算数B	54.7	47.0	47.2	○算数の「数学的な考え方」領域に課題がある。正答率が県や全国正答率以上になるようにする。 ○5～6児童の算数の授業内容理解度が85%以上になっている90%を目指し、意欲面・学力面から指導していく。	○年度初めの校内研究会・学年会で、前年度の全国学力・学習状況調査、県学習定着度状況調査、CRT結果を全職員で確認・協議し、学力向上に取り組む。 ○調査結果を全職員で共有し、補充指導や授業改善に生かす。	○調査分析とまとめ ○学力向上年間計画 ○指導時間調整 ○水沢南中学校区との連絡調整 ○学力課題に基づいた家庭学習の推進と家庭への啓発	○調査分析とまとめ ○学力課題に基づいた研究授業の計画実施 ・国・算・社理・特支教科部会との連絡調整 ・全体・部会研究会計画作成実施(事前・事後研究会含む) ・講師派遣申請 ・授業改善の成果と課題	○教科指導の重点領域、指導法、評価の視点について学年会での確認 ○落ち込んでいた部分に付箋を貼り、常に指導時に活用 ○少人数加配教員と連携し補充プリントを作成、実施 ○学年共通で、学力向上を意識した授業と連動した家庭学習の実施 ○学力向上を支える効果的な学習環境づくり																								
			本校	岩手県	全国																																						
算数A	86.1	77.9	77.6																																								
算数B	54.7	47.0	47.2																																								
H28 岩手県学習定着度調査 <table border="1"> <tr><td colspan="4">過年度5年算数 正答率(%)</td></tr> <tr><td></td><td>本校</td><td>岩手県</td><td>県比</td></tr> <tr><td>H27</td><td>73.9</td><td>73.1</td><td>101.1</td></tr> <tr><td>H28</td><td>75.7</td><td>69.3</td><td>109.3</td></tr> <tr><td colspan="4">H28 算数の授業理解度(%)</td></tr> <tr><td></td><td colspan="2">6年</td><td>5年</td></tr> <tr><td>よく分かる</td><td colspan="2">52</td><td>55</td></tr> <tr><td>分かる</td><td colspan="2">37</td><td>31</td></tr> <tr><td>どちらかといえば分からない</td><td colspan="2">7</td><td>11</td></tr> <tr><td>よく分からない</td><td colspan="2">4</td><td>0</td></tr> </table> <p>○学力向上傾向にあったが、支援を要する児童も増えてきており、指導形態の工夫や個に応じた指導の在り方の改善が話題となった。</p>	過年度5年算数 正答率(%)					本校	岩手県	県比	H27	73.9	73.1	101.1	H28	75.7	69.3	109.3	H28 算数の授業理解度(%)					6年		5年	よく分かる	52		55	分かる	37		31	どちらかといえば分からない	7		11	よく分からない	4		0	○算数の「数学的な考え方」領域に学年間の正答率の差が大きい。 ○算数への関心が70%と低い。意欲面を向上させたい。	・年5回家庭学習強化日の実施 ・学年漢字計算大会実施	
過年度5年算数 正答率(%)																																											
	本校	岩手県	県比																																								
H27	73.9	73.1	101.1																																								
H28	75.7	69.3	109.3																																								
H28 算数の授業理解度(%)																																											
	6年		5年																																								
よく分かる	52		55																																								
分かる	37		31																																								
どちらかといえば分からない	7		11																																								
よく分からない	4		0																																								
H28 標準学力検査 CRT <table border="1"> <tr><td colspan="7">H28 算数への意欲・関心・態度(%)</td></tr> <tr><td>1年</td><td>2年</td><td>3年</td><td>4年</td><td>5年</td><td colspan="2">6年</td></tr> <tr><td>71.4</td><td>70.7</td><td>72.5</td><td>70.7</td><td>70.9</td><td colspan="2">70.0</td></tr> <tr><td colspan="7">H28 算数【数学的な考え方】(%)</td></tr> <tr><td>1年</td><td>2年</td><td>3年</td><td>4年</td><td>5年</td><td colspan="2">6年</td></tr> <tr><td>87.9</td><td>79.8</td><td>75.0</td><td>68.5</td><td>71.4</td><td colspan="2">68.7</td></tr> </table> <p>○「数学的な考え方」では、図形にかかる問題、計算の適用問題、単位当たり量にかかる問題にどの学年も課題が見られた。また、個人差が高学年になるほど大きくなりきめ細やかな指導の必要性を強く感じた。</p>	H28 算数への意欲・関心・態度(%)							1年	2年	3年	4年	5年	6年		71.4	70.7	72.5	70.7	70.9	70.0		H28 算数【数学的な考え方】(%)							1年	2年	3年	4年	5年	6年		87.9	79.8	75.0	68.5	71.4	68.7		
H28 算数への意欲・関心・態度(%)																																											
1年	2年	3年	4年	5年	6年																																						
71.4	70.7	72.5	70.7	70.9	70.0																																						
H28 算数【数学的な考え方】(%)																																											
1年	2年	3年	4年	5年	6年																																						
87.9	79.8	75.0	68.5	71.4	68.7																																						

(3) 学力向上の取組の年間スケジュール

校内研究会や職員会議で重点項目を共通理解し、学年会や研究部会で内容を吟味して学力向上に取り組んでいる。補充指導では、主幹教諭・教務主任・研究主任も位置付き、朝学習・授業支援・放課後の個別指導にも「チーム南小」としてかかわっている。【資料3】

組織的な取組を目指した年間スケジュール												
	1学期						2学期				3学期	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学力分析	H29全国学力調査実施分析6年						H29岩手県学習定着度状況調査実施分析5年				H29標準学力検査実施分析	
研究実践	H29全国学力調査を全職員で解き共通理解を図る		各種調査で落ち込みが見られた領域を意識した授業実践・改善						H29岩手県学習定着度状況調査の共通理解を図る		H29標準学力検査の落ち込みの共通理解	
補充指導	H28全国学力調査の補充指導		H29全国学力・学習状況調査で落ち込んでいる部分の指導						H29標準学力検査の補充指導			
	家庭学習強化日①		家庭学習強化日②		漢字大会 計算大会		家庭学習強化日③		家庭学習強化日④		漢字大会 計算大会	
主な学校行事	入学式 全国学調	運動会	修学旅行 宿泊研修 遠足	水泳記録会	水泳大会	陸上記録会 全校なわとび	南小フェスティバル	岩手県学調 取組祭5年	鼓笛引継ぎ	CRT 児童会選挙	6年生を送る会	卒業式

2 学力向上を視点とした授業改善の取組

(1) 校内研究の推進

【資料4】

重点教科である算数だけではなく、各教科の指導構想や単位時間の「つかむ」「いかす」場面で、学力向上を意識していくことができるように、指導過程を工夫した。【資料4】

【学力向上にかかる重点】

- ア 単位時間の学習課題を把握する「つかむ」では、どんな力がこの時間で身に付くか、意識させる。
- イ 「数学的な考え方」を含めた思考力・表現力を高めるために、「きく・あらかわす」では考えを式や図・用語などを表現し交流する「言語活動」を位置付ける。
- ウ 「いかす」では、適用問題やジャンプの問題に取り組ませ、落ち込んでいる部分の定着を図ったり、難易度の高い問題を協働的に取り組ませることで、学習への成就感をもたせたりする。

研究主題 **かかわりながら、考えを深める児童の育成**
～「つかむ」「きく」「いかす」工夫を通して～

手立て1
「単元・単位時間における学びを深める授業構想」

- (1) 「つかむ」(見通す場面)の工夫
ア、何で課題設定するのか
イ、何を見通して活用していくのか
- (2) 「きく」(交流)の工夫
ア、3つのきくの吟味
イ、思いを共有するための工夫
- (3) 「いかす」(振り返り・活用)の工夫
ア、自己の学びを実感する 振り返り
イ、学びを生かし高める 活用

学力課題の関連

各種調査分析で落ち込んでいる部分を意識した単位時間の導入を図る。(付けた力や学力課題の視覚化)

落ちこんでいる部分や力を付けたい部分の問題を「3つのきく」を意識しながら解いたり話し合ったりする。

聞く	聴く	訊く
<意識的・分析的>	<共感的・受動的>	<協働的・判断的>
・正しく聞き取る。	・相手の言いたいことを考えて聴く。	・もっと詳しく話を訊く。
・理解する。	・発言の根幹に興味や思いをもちながら聴く。	・相手の真意、思いにせまらぬために訊く。
		・自分の中の他者とのズレにせまらうと訊く

手立て2 深い学びを支える学びの関連

- (1) 各教科で育みたい資質・能力、見方考え方の明確化【習得させる力】
- (2) 他教科との学びの関連(横断的・系統的)【付けた力の活用】

手立て3 学びを深める学習基盤づくり

- (1) 児童理解を大切に学級づくり
- (2) 授業と連動した家庭学習の充実
- (3) 教師の授業力向上

児童の各種調査に基づいた学習意欲の実態や児童への称揚や家庭学習や個別指導の充実を図る。

<学習指導案>

5年学調やCRTでの課題を明記する。

交流の視点や具体的な支援について明記する。

課題の定着を図る適用問題やジャンプの課題を明記する。

じっくりコース 5年

ぐんぐんコース 課題があった部分を確認する掲示

(2) 指導形態の工夫

児童一人一人に関わる時間を確保し、個に応じたきめ細かな指導を行うため、単元のねらいや児童の実態に応じて「ティームティーチング」「児童の希望による分割指導」「習熟度別指導」を行った。

	「ティームティーチング」	「児童の希望による分割指導」	「習熟度別指導」
領域や観点	図形領域	全領域	全領域(特に「数と計算」が有効)
視点	TTで行うことによって全員に目が行き届く。個別指導と全体指導の役割分担が可能。年度当初は実態把握のため、この形態で行う。	多様な考えをもたせたい領域で取り入れる。上位層が下位層をリードし、考えが深まる。個のよさが発揮できる場面も期待できる。	習熟別プリントなどを活用し、児童実態に応じて、児童自身が挑戦する問題を選ぶことや個に応じたきめ細やかな指導が可能。学習意欲の向上にもつながる。

(3) 各種調査分析に基づいた補充プリント

少人数指導教員が中心となり、各種調査分析を行い、補充プリントを作成している。H28 5年岩手県学調で落ち込んだ部分に対しては、17枚補充プリントを作成した。

問題番号	問題内容	年次	科目	得点	割合	順位
28	折れ線グラフの読み取り(条件2)	4年	数量関係(考)	65	59	69
29	二次方程式のマスの意味が分かる	4年	数量関係(考)	70	74	77
30	二次関数の人数	4年	数量関係(考)			31
31	問題場面と式の関連	4年	数量関係(考)	71	64	74
32	合同な三角形の作図条件	5年	図形(知)	62	59	69

H29 今年度実施した5年学調結果の分析(上)に基づいた補充プリント例(右)朝学習・授業・家庭学習で活用が始まっている。

5年学調結果に基づいた補充プリントの例

(4) 学年会での共通理解

各種調査で学力課題がある学習内容を学年会で細かく確認し、指導法や教材準備、指導計画、評価の観点について共通理解する。

研究授業の際は、同一学年の中で事前授業を行い、共同研究に取り組む。授業づくりを通して、児童理解や学習訓練、学級経営などについても交流し、よりよい学級づくりを目指している。

3 学力向上につながる教師の授業力向上

(1) 教師の授業力向上を目指して

児童の学力向上は、教師の授業力向上が必須である。6月・10月・2月に、授業についての自己評価を行い、全校研究会や学年会で課題について確認している。

【資料5】

	授業前		授業中					授業後など		
	1	2	1	2	3	4	5	1	2	
	1 時 指 導 目 標	2 授 業 態 を 開 構 ま え た	1 課 題 把 握	2 教 材 の 工 夫	3 適 し た 活 動	4 板 書 ・ 指 導	5 「小 グ ル ー プ で 3 つ の き く」	6 課 外 活 動 に 関 連 し た 問 題	1 評 価	2 授 業 改 善 結 果
1年	3.0	2.8	3.0	3.0	3.0	3.0	2.5	2.8	2.5	2.3
2年	3.0	2.7	3.0	2.7	2.3	2.7	2.3	2.7	2.0	2.7
3年	2.8	2.8	3.3	2.5	2.5	2.5	2.0	2.0	2.5	2.0
4年	2.7	2.7	3.3	2.7	2.7	2.7	2.3	2.7	2.7	2.7
5年	3.7	3.0	3.7	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3
6年	3.0	3.7	3.7	3.0	3.7	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3
平均	3.0	2.9	3.3	2.9	2.9	2.8	2.6	2.6	2.7	2.6

(2) 年間29回の提案授業（学年間での協力体制）

授業力向上を目指し、全員が年間に1授業を提案している。研究部会の枠を超え、学年で事前授業に協力し合い提案授業までに2授業の事前研究会を行う場合もある。

【資料5】

4 日常における学力向上の取組

(1) 朝学習

朝学習は補充指導を中心に取り組み、ことば担任2名、少人数加配教員4名が支援に入る。必要に応じ、主幹教諭・教務主任・研究主任も入り、個に応じたきめ細やかな指導を目指している。

【資料6】

曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
①4月～11月(基本)	(職員朝会) 朝読書	(全校朝会) (児童朝会) 学級裁量	国語学習【書くこと】	国語学習【読むこと】	算数学習【四則計算】 【数学的な考え方】
②9月～10月上旬	5学年 学習定着度状況調査に向けた他学年は、CRTに向けた取組				
③12月～3月	学年のまとめ(定着・補充問題)				

(2) 漢字・計算大会

学期末には、学期ごとに確実に身に付けさせたい漢字50問・計算10問～50問テストに取り組み、長期休業中の個々の学習課題を意識させている。

(3) 家庭学習の取組

ア 小・中連携の取組

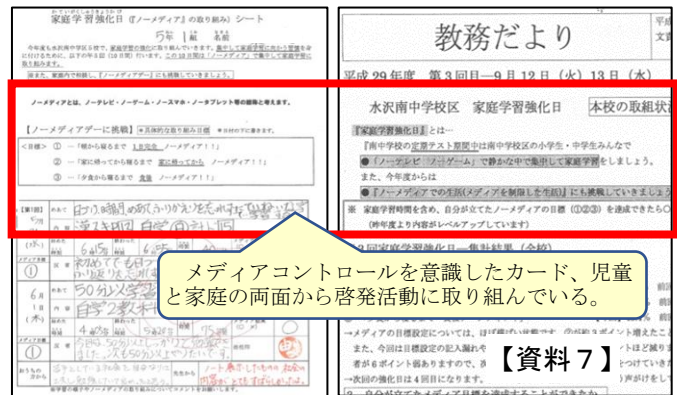
水沢南中学校区（水沢南小、真城小、姉体小、黒石小、水沢南中）で年間5回の家庭学習強化日に取り組んでいる。中学校の中間・期末テスト日に併せて実施し、メディアコントロールの取組は、各家庭の実態に応じて決めていることで成果が上がっている。

【資料7】

イ 家庭学習の意欲を図る学習環境づくり

年5回の家庭学習の後、授業と連動したノートがよく分かるノートを全校児童が通る廊下や学年棟に掲示し、よりよいノートを視覚化させ学力向上を目指している。

【資料8】



【成果と課題】

- 「H29 全国学力・学習状況調査」の算数は、算数A全国比107、算数B111だった。算数Bの「問題文を正しく読み取る」「問題文に適した立式を筋道よく考える」が課題として残った。
- 「H29 岩手県学習定着度状況調査」の算数は、正答率は県比107.9となり、目標を達成することができた。
- 「H28 全国学習学力調査」「H28 岩手県学習定着度状況調査」で落ち込みが見られた「数学的な考え方」の観点の問題の正答率は、昨年度を大きく上回り、「複合図形の面積の求め方と体積の求め方を統合的に理解し、それらに共通する求め方を説明することができる。」は県比125となり、大きな伸びが見られた。
- 「H29 全国学習学力調査」「H29 岩手県学習定着度状況調査」の算数において、質問紙「授業の内容が分かる(よく分かる)」の割合において、6年児童は目標値90%を達成した。5年児童はCRTと岩手県学習定着度状況調査を比較したところ、11%の伸びはあったが、目標値達成には課題が残った。

今後においても、「学年会」を核に、「チーム南小」の組織的な取組を大切にしながら、分析結果に基づいた学力保障に取り組んでいきたい。

	算数A	算数B
本校	84	51
岩手県	81	45
全国	78.6	45.9
全国比	107	111

	H29	数学的な考え方
本校	66.9	66.7
岩手県	62	60.5
県比	107.9	110.2

	本校	岩手県	全国
H29 全国学力・学習状況調査	91.4	82.5	80.6
H28 学習定着度状況調査	89	87	

	本校	比較
H28 標準学力検査 (CRT)	72	国 70.7
H29 学習定着度状況調査	83.25	県 83.5